No.1：プロモーション事業 ～「とちぎの酒」大々的に～（令和5年4月25日）

【メディア向けイベントで行われた鏡開き=3月28日】

国税庁が発表した2022年の日本産酒類の輸出動向によると、輸出金額の総額は約1,392億円で、初めて1,000億円を超えた2021年に続き好調に推移する一方、香港については対前年比21.4%減の約116億円であった。

清酒、いわゆる日本酒の輸出金額も香港向けは対前年比23.5%減の約71億円であったが、今も日本産酒類の輸出金額の6割以上を占めていること、他国に遅れながらも新型コロナウイルスに関する規制が撤廃され経済活動の回復が期待されることを鑑みれば、今後も重要な輸出先であることに変わりはない。

こうした中、3月15日から31日の期間、「香港におけるとちぎの酒プロモーション事業」を実施した。多くの本県産酒類が香港に輸出されているが、それらをまとめてプロモーションすることにより、本県産酒類の質の高さやバラエティの豊かさを香港の方々に知ってもらい、合わせて本県自体のPRにもつなげようという狙いである。

今回のプロモーションには、日本居酒屋「権八」の銅鑼湾店と尖沙咀店、セントラルマーケット内の「Winelog」にご協力いただいた。

権八は、西麻布店がブッシュ元大統領と小泉元首相の会食会場や映画「Kill Bill」のシーンのモデルとなったことで有名な高級居酒屋であり、日々多くの香港居民などでにぎわっている。セントラルマーケットはもともと、生鮮食品売り場として使われていた建物をリノベーションし、数多くの飲食店・土産店・生活雑貨店などが並ぶ新たなランドマークとして生まれ変わった場所である。

プロモーション期間中、権八では約30種の県産日本酒、Winelogでは6種の県産ワインと日本酒を特別メニューとして提供したところ、好調な売れ行きだったようだ。さらに権八からは、3月31日以降もプロモーションを続けたいとの申し出をいただき、５月末まで特別メニューの提供が継続されている。

世界各国からさまざまな酒類が輸入されているだけあって、香港における酒類の競争は激しい。今回の事業を通じて本県産酒類の販路拡大やプレゼンスの向上に貢献できたのであれば、うれしい限りである。

（県香港事務所長　卯木啓之）